

(公社)神奈川県理学療法士会 災害対策委員会 講師派遣事業報告

伊勢原リハビリ地域医療介護連携会に参加しました。

講師担当 (公社)神奈川県理学療法士会災害対策委員会 西澤茂子

平成29年7月18日(火)伊勢原協同病院にて行われた「伊勢原リハビリ地域医療介護連携会(以下、連携会)」の研修会として災害対策に関する講話の機会をいただきました。

連携会は、伊勢原協同病院リハビリテーション室の須貝勝氏が主催責任者として昨年に発足された会です。これまでに、伊勢原市内のリハビリテーション職と協働して定期的に研修会を開催してきて、多くの医療・福祉関連職種が参加し活発な活動をしています。

今年度の活動のテーマとして、“伊勢原市内リハビリテーション職や関連職種の連携を強めるとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けた「まちづくり」への貢献”を掲げていて、その一環として本研修会が開催されました。

当日は激しい雷雨にも関わらず、病院やクリニック、訪問リハビリに従事するリハビリテーション職の他、地域包括支援センター職員など多職種の方にご参加いただき皆様の関心の高さが伺えました。

内容は「災害時のリハビリテーション支援-理学療法士の役割-」について1時間の講話を行いました。具体的には災害対策委員会の



平時及び発災時の活動をはじめ、災害時に理学療法士がどのような役割を担う必要があるのか、役割を担うためには平時からどのような活動が必要なのかについてお話しをしました。避難所のリハニーズの状況把握や環境調整、リスクを想定した生活不活発病予防の運動指導など、理学療法士の専門性を活かした支援を発災時にできる限り迅速に且つ効率的に行うためには、日頃から地域の関連職種が強い連携を取りチームとして活動できることが必要となります。講話後にはディスカッションも行われ、連携会の活動テーマである“地域包括ケアシステムの構築に向けたまちづくり”がそのまま災害対策に繋がるとの気づきがあったという言葉も聞かれました。会員内でもまだ認識が不足している災害リハビリテーションについて養成校の教育に組み込まれると良いのではないかとといった意見や、伊勢原市の地形の特徴から想定される災害について、伊勢原市と締結している協定についてなど、多職種の知識や見解も聞かれる貴重な研修会となりました。

災害対策委員会では地域防災をキーワードに災害支援ネットワークの構築を目指した研修会やキャラバンの開催の他、災害支援対策関連の勉強会、研修会の講師派遣を承っています。興味のある方は積極的にお声かけ下さい。